

# E-FIELD Home

Education For Implementing End-of-Life Discussion at home

## STEP3

本人の意思を推定する

# 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。

心身の状態に応じて意思は変化しうるため  
繰り返し話し合うこと

## 主なポイント

本人の人生観や価値観等、できる限り把握

本人や家族等※と十分に話し合う

話し合った内容を都度文書にまとめ共有

本人の意思が確認できる

本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた、本人の意思決定が基本

人生の最終段階における医療・ケアの方針決定

STEP 3

・家族等※が本人の意思を推定できる

本人の推定意思を尊重し、本人にとって最善の方針をとる

本人の意思が確認できない

本人にとって最善の方針を医療・ケアチームで慎重に判断

・家族等※が本人の意思を推定できない  
・家族がいない

・心身の状態等により医療・ケア内容の決定が困難  
・家族等※の中で意見がまとまらないなどの場合

→複数の専門家で構成する話し合いの場を設置し、方針の検討や助言

※本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、話し合いに先立ち特定の家族等を自らの意思を推定する者として前もって定めておくことが重要である。

※家族等には広い範囲の人（親しい友人等）を含み、複数人存在することもある。

# 学習目標

- 本人の明確な意思が確認できないとき、意思を推定する方法を理解する
- 本人の意思が確認できないが家族等がその意思を推定できる場合、推定意思を尊重するための方法を具体的に説明できる
- 家族等が本人の意向を推定できるようにエンパワメントすることができる
- 常に本人が意思を表出できる可能性はないかを確認する
- 本人にとっての最善を考えるために、その人が固有に持つ価値観、人生観に関する情報を得ておくことの重要性を理解する

# 家族等とは

- 家族等とは、今後、単身世帯が増えることも想定し、本人が信頼を寄せ、人生の最終段階の本人を支える存在であるという趣旨ですから、法的な意味での親族関係のみを意味せず、より広い範囲の人（親しい友人等）を含みますし、複数人存在すること考えられます。  
(このガイドラインの他の箇所でも使われている意味も同様です)

(出典)「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン 解説編」

# 家族等の声：本人の最善利益の 査定において家族等がもつ2つの役割

- 本人の声を代弁するもの
  - 「本人は、どのようにお考えだと思われますか？」
- 本人のことを大切に感じ、世話するものとしての意向を表現するもの
  - 「ご家族としては、どのようなお気持ちでしょうか？」

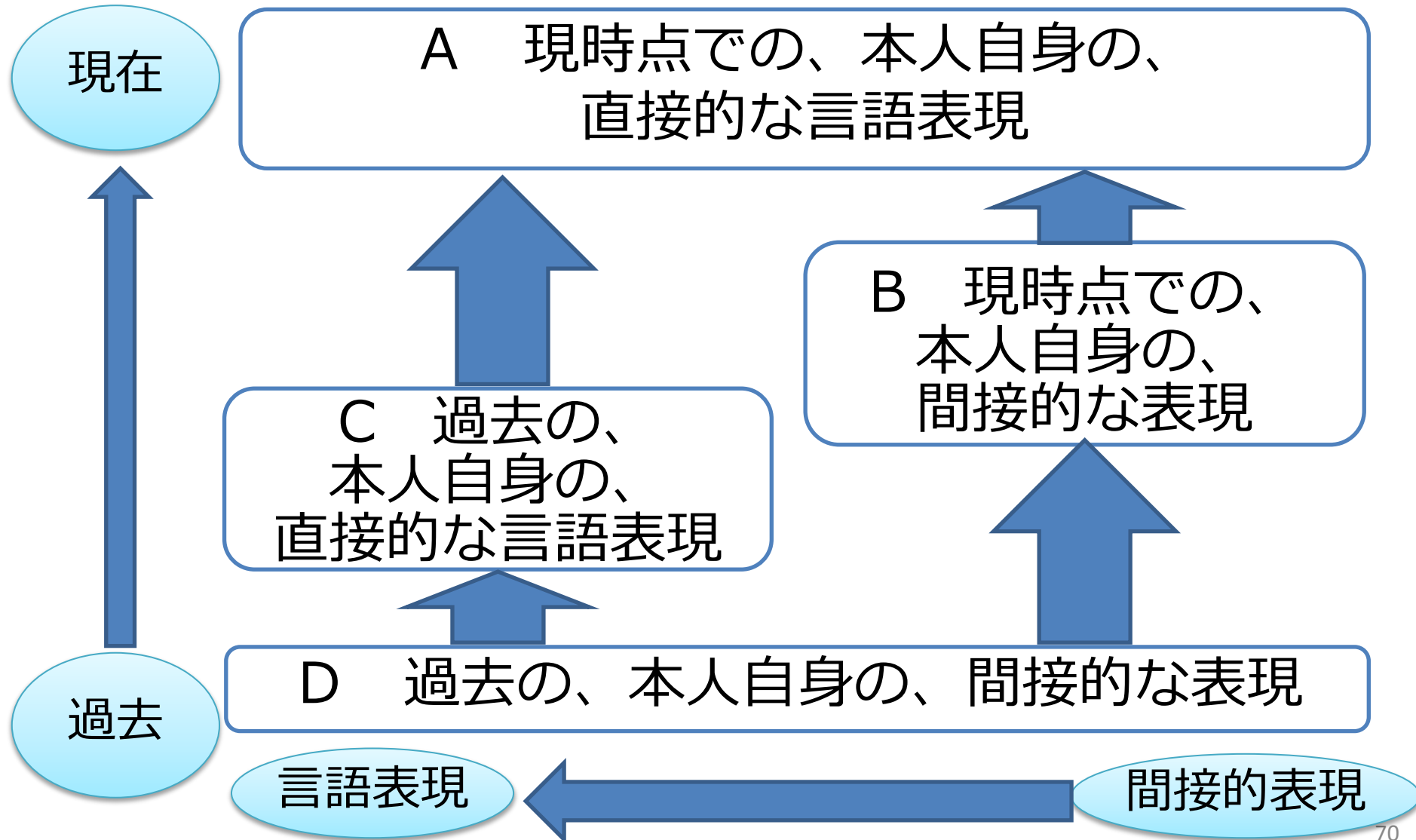
# 「家族」であるために重要なこと

- 困ったときに助け合う 68.4%
- 精神的なきずながある 56.5%
- 互いにありのままでいられる 50.7%
- 血のつながりがある 50.3%
- 日常生活を共にする 37.7%

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「第5回全国家庭動向調査」



# 意思を推定する



# A.現時点での、本人の、直接的な言語表現

- 常に「本人が自分自身の選好を何らかの形で表現できる機会はある」と考える
- 合理的判断が可能な状況においては最も強い根拠となる
- 自由な選好を何らかの形で表現できる環境を整える
- 誘導的な操作を行わない



## B.現時点での、本人の、間接的な表現

- 侵襲的なケアの一時的な拒否は、誰でもある
  - 吸痰の拒否
  - 経鼻チューブの抜去
- 再現性を観察する
- 抑うつやせん妄などの影響について考慮する

## C. 過去の、本人の、直接的な言語表現

- Advance Care Planning
- 明記されたリビングウィルのような事前指示書
- メモや録音記録
- かかりつけ医の証言（やや間接的）
- 家族等や介護に当たる人の証言（やや間接的）

## D.過去の、本人の、間接的な表現

- 自由に対する考え方
- 死や、死にゆくことに関する考え方
- 医療や健康に対する考え方
- 医療や健康サービスへのアクセス
- 家族などから見た印象や理解
- 「延命治療」等のテーマに関するエピソード

# 本人の背景とナラティブ（人生の物語）

- ◆ 本人がどのような人生を今まで過ごしてきたのかという文脈の中で、その言葉や表現を丁寧に取り扱うことは、とても重要な視点
- ◆ 「現在」は、本人が歩んできた過去から現在までの人生のストーリーに直接つながっており、今後の選択や選択の後に想定される状況は、それまでのストーリーと地続きであるということ念頭に、意思決定に関与する関係者は現在の状況について理解する
- ◆ 人生の履歴のもつ文脈を、本人の意思の推定に関与する家族等や医療・ケアチームは共通理解をしていく

# ロールプレイ

## ◆ 動画（10分）

（お配りしているワークシートに、各々の思いや考えをメモ）

## ◆ 配役決定・個人ワーク（役割を担うための情報や思考の整理）（5分以内）

- 姪
- 息子
- サ高住スタッフ
- MSW
- 病院看護師
- ケアマネジャー

必須の配役

自由選択

## ◆ ロールプレイ（20分以上）

目的）京子さんの意思に関わる人たちと共に推定する

動画を見ながら、それぞれの思いや考えについて、メモを取ってください。

# ロールプレイ

**設定)** 今後の治療・ケアの大まかな方針を立てるためにも、まずは息子に病院における普段の京子さんの様子を見てもらうと同時に、サ高住のスタッフも呼ばれて、関わる人たちで京子さんの推定意思を確認することとなった

## ◆最初の5分以内に行うこと

### ◆ 配役決定(ファシリテーターから指名があります)

- 姪
- 息子
- サ高住ケアスタッフ
- MSW (打ち合わせの司会)
- 病棟看護師
- ケアマネジャー

必須の配役

自由選択

### ◆ 個人ワーク：役割を担うための情報や思考の整理

割り振られた役に関する情報を整理し、各自、どんなふう  
に演じるかの方針を検討ください。



# ロールプレイ

## ◆ ロールプレイ（20分以上）

**目的）京子さんの意思に関わる人たちと共に推定する**

- ・ 司会のMSW役が以下のように進行

「今日は、京子さんなら、どのように今後を過ごされることを望んでいるかを考えてみたいと思います。京子さんの意思や価値観、希望について、皆さんの把握されていることをまずは共有してみましましょうか？」とスタートする

- ➡ 姪、サ高住のスタッフの順で話をしてもらう
- ➡ 息子に、姪、サ高住スタッフの話を聞いて、どう感じたか京子さんならどう考えるかを話してもらう
- ➡ 病棟看護師役、ケアマネジャー役にも話をしてもらう
- ➡ 全員で、ディスカッション

◇ 京子さんならどう考えるかという視点で、ディスカッションし、関係者で合意形成するプロセスを体験する

# ロールプレイ後のグループ内のまとめ

京子さんの意向を推定するために、医療・ケアチームが、姪や息子に対しエンパワメントができたかにフォーカスしたフィードバックをする

- ◆ 姪・息子役は、医療・ケア専門職役の関わりをより良いものにするようなフィードバックをする
- ◆ 医療・ケア従事者役は、京子さんの意思を推定するために、自分がどのように話し合いをすすめようと思ったか、姪・息子役からのフィードバックを受けて、どう感じ、どう関わりを改善したらよいと思ったかを姪・息子役に伝える

➡書記の方は、Googleスライドに記載をお願いします。

# 対話のポイントと重要性

- 対話とは立場や役割の違いを認識するコミュニケーションである
- 「分かり合えないこと」「意見が一致しない」ことがあるのは当然。それを覚悟の上で、対話を重ね、着地点を探る
- それぞれの発言の内容が誰にとって価値があるのか、本人にとって、どうなのかを丁寧に検討することが大事
- 介護従事者の役割は、自分が生活の中で聞き取ってきた本人の思いを代弁すること
- 家族間で意見が食い違っている場合であっても、本人の思いを代弁して、発言することが重要
- 「選択した後」に、「その選択でよかった」と思えるようにフォローすることが極めて重要

# 本人の意思を把握し続けることが何よりも重要

本人

状態が変化

- ① 日常生活の中で、本人の希望や価値観を知る
- ② 家族等や職員間で共有する
- ③ 多職種で共有し、記録に残す
- ④ 機能の変化に応じたケアを柔軟に行う
- ⑤ 本人の意思を理解・推定することに努める

## 言語表現ができない状態

- ① 痛みや不快・苦しんでいる様子はないか
- ② 表情や表現から、本人の気持ちや状態を汲みとる
- ③ 常に本人が望んでいたことを再確認する
- ④ 嫌だという意思表示は、特に尊重する

# 本人の意思を家族等と共有する

## 家族

## 状態が変化

- 本人の希望や価値観を共有し、家族等の考えを聞く  
…家族等が本人の希望をどうとらえているかを確認
- ① 機能が変化している状況の共有
  - ② 何が起きているかを確認し、家族等と認証し合う
  - ③ 老化の過程の説明
  - ④ 人生の最終段階や死は、いつ訪れるかわからないことを共有

## 言語表現ができない状態

- ① 同意書の確認とともに、家族等の現在の思いを聞く  
→ 今後の方針と、家族等の思いのすりあわせ
- ② 本人の様子や変化を、家族等とこまめに共有
- ③ 家族等の不安や疑問と向き合い続ける

# まとめ

- 本人の意思を推定するにあたり、
  - 意思決定する力が不十分な状況にあっても、本人からの情報を得る努力を続ける
  - 「現在の」情報、「直接的言語表現」からだけでなく、「過去の」情報、「間接的表現」にも目を向ける
  - 本人の背景とナラティブを知ることが重要
- 常に、本人の希望や想いを叶えることを軸とし、本人の様子や変化を、家族等とこまめに共有し、家族等の不安や疑問と向き合い続けながら、本人の意志が推定できるような支援を続ける。